

肝心かなめの 肝臓 のはなし 7

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉

B型慢性肝炎の治療 — その2 注射薬 — ペグインターフェロン

B型慢性肝炎の長期の治療目標として、ウイルス感染を決定するHBs抗原の陰性化があります。しかしながら、HBs抗

原を陰性化する方法は確立されていないのが現状です。HBs抗原の検査数値を低下させる、現在最も有効な治療方

法は「ペグインターフェロン治療」です。週に一度ペグインターフェロンを皮下注射し、48週間続けて投与します。副作用として、主に風邪のような症状（発熱など）がありますが、そのほとんどは、解熱剤などの一般的な治療で解決できます。

ペグインターフェロン治療で成功した、2つの症例を紹介します。1例目は50代男性です。ペグインターフェロンの一種であるペガシス®により、1カ月目でHBV DNA（B型肝炎ウイルスのDNA）が陰性化しました。そして5カ月目でHBs抗原が陰性化し、以降陰性化が続いています（図1）。

2例目は、HBV DNA量を検出感度以下にする核酸アナログを投与中なので、HBV

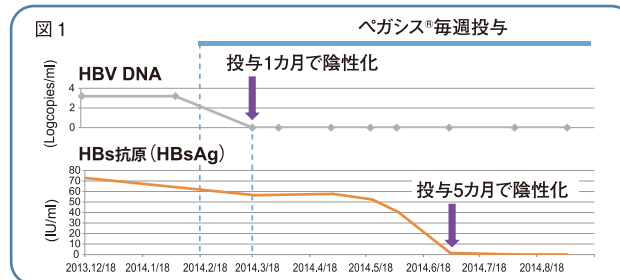
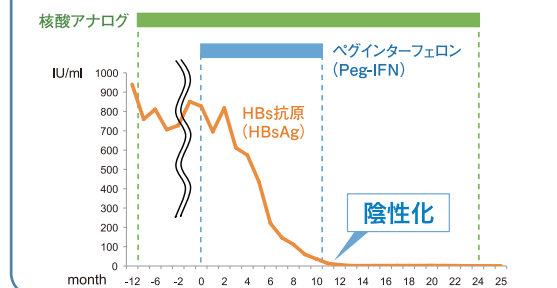


図2 〈50代男性〉核酸アナログ製剤にペグインターフェロンを追加しHBs抗原の陰性化が得られたB型慢性肝炎の一例



DNAは陰性です。しかし、その上にペグインターフェロンを約1年上乗せして、ペグインターフェロン終了後1カ月でHBs抗原が陰性になった症例

です（図2）。その後核酸アナログを中止しても肝機能は正常で、HBs抗原も陰性のままでした。ペグインターフェロン治療は、現在HBs抗原を低下させる最も有効な治療といえるでしょう。